

## 第2学年算数科学習指導案

日 時 平成17年10月12日(水) 授業2  
学 級 2年4組 男子16名 女子16名 計32名  
場 所 2年4組教室  
授業者 教諭 千葉 道宏

### 1 単元名 かけ算(1)「新しい計算を考えよう」

### 2 単元について

#### (1) 教材観

本単元にかかわる小学校学習指導要領の第2学年の内容には、「乗法の意味について理解し、それを用いることができるようにする」とある。

第1学年では、2とび、5とびの数え方や、2ずつ、5ずつ、10ずつのようにまとめて数えること、さらに、ひとまとまりになっている数とまとまりの個数からものの総数を求める活動を行い、乗法の素地となる経験を積んできている。

本単元は、これらの経験に基づき、具体的な数量  $a$  をもとにして  $a$  の  $n$  個分が  $m$  であることをとらえ、これを  $a \times n = m$  と表現して乗法を意味付け、具体物で表現したり、身の回りで乗法を適用できる場面を探したりする活動を通して、乗法の意味理解を確実にしていく。そして、乗法九九(5、2、3、4の段)を導入し、その構成理解と記憶・適用を図っていくものである。

乗法は、同数累加の簡潔な表現としてとらえられる。そこでは、「いくつずつ、いくつ分」という新しい視点が生まれる。この視点で身の回りのものを見つめると、その簡潔さや便利さに気づき、そこから学ぶ楽しさを味わい、必要な場で進んで活用できる教材であると考えられる。

#### (2) 児童観

かけ算九九という言葉を知っている児童は多く、九九の暗唱に高い意欲を示している児童も多いが、意味はもちろん、活用場面についての理解は低い。

学び方に関わっては、見通しに従って既習事項を活用しながら自力解決することが少しずつできるようになってきているが、その考えをうまく説明できる児童は少ない。また、出された考えのよさを理解しようとはするが、その共通点を見出してまとめていくことは困難である。適用に関わっては、技能的なことよりも、全体的にその意識が低い傾向がある。

本単元に関わるレディネステストの結果は次の通りである。

1 数を正しく数え、5ずつまとめることができる。-----	正答率 100%
2 5を単位として、いくつ分あるかが分っている。-----	正答率 96%
3 「1あたりの数」と「いくつ分」に着目して、答えを求めることができる。--	正答率 52%
4 10とび、5とび、2とびなどの、数の系列が分っている。-----	正答率 90%

ほとんどの児童が、数をいくつかのまとまりにすることができ、そのまとまりを数えることができる。また、簡単な数系列もほぼ定着している。しかし、何のいくつ分という意味内容の理解が確実でないことが明らかとなった。このため、具体物や図を通して、視覚的・体験的にそのとらえ方を強く意識させていく必要があると考えられる。

#### (3) 指導観

乗法の意味を理解する上で大切なことは、「同じ大きさの数量」として、どの数量をひとまとまり(単位とする大きさ)として意識するかということである。さらに、その単位とするひとまとまりの数量がいくつ分あるかを明確にし、全体の大きさを「単位とする大きさのいくつ分」ととらえることである。

そのため、形式的な乗法九九の暗唱を急がず、具体物を用いた活動を十分に取り入れて、乗法の意味を正しく理解させるようにするとともに、発見したきまりを活用して、問題解決していくような考える力を育てていきたい。具体的には次の点から活動を工夫をする。

ア 何のいくつ分というとらえ方が確実にできるよう、多様な形で問題を設定する。その際、具体物や図で表すことを通して視覚的にも問題を把握させる。

イ 図から立式したり、立式したもものから図に表わしたりする活動や、適用場面において乗法の問題を作る活動を取り入れ、「 $\square$  個ずつ  $\square$  分」の大きさとして見るができるようにする。

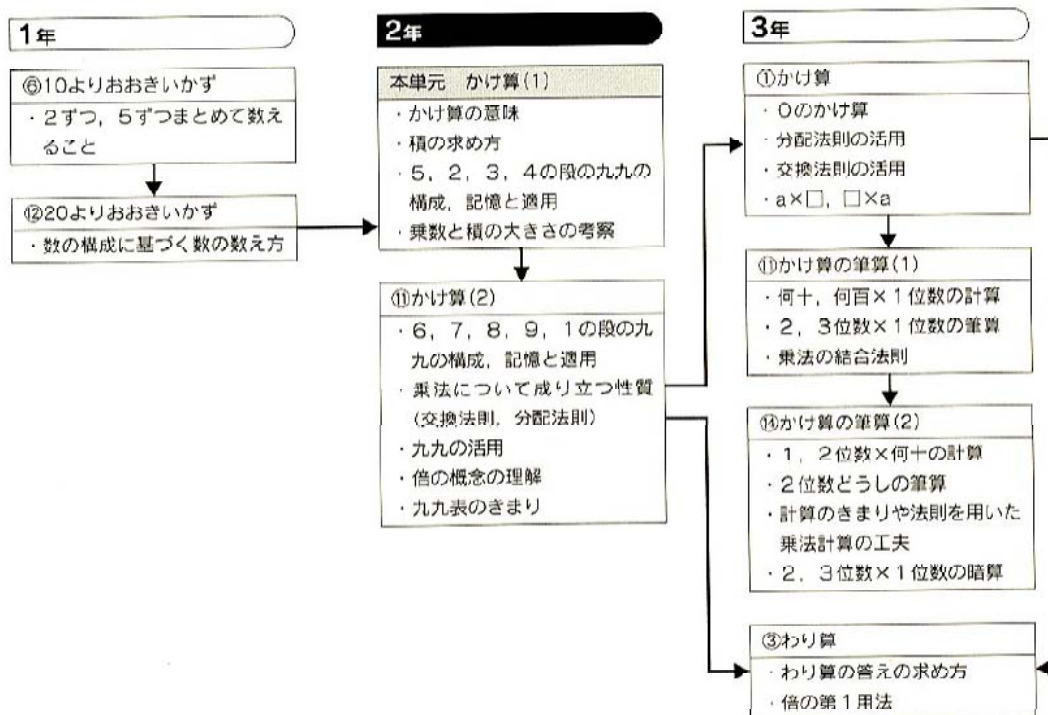
ウ ひとり学びのあとに、その方法の振り返りと、とも学びへの見通しを個々に行うことを位置付けて、目的のあるとも学びをさせ、考えを広めたり深めたりできるようにする。

エ 児童自ら乗法九九のきまりを発見しながら学習を進めていけるよう、九九導入前に乗法の式に表わすチャレンジ学習を位置付け、確実な乗法の意味理解を図る。

### 3 単元の目標と評価規準

	目 標	評 価 規 準
算数への関心・意欲・態度	乗法よさに気づき、ものの全体の個数をとらえるときに進んで乗法を用いようとする。	同じ数を何回も数える加法(累加)の簡潔な表現として、乗法九九よさに気づき、ものを数えるときに、進んで乗法を用いようとしている。
数学的な考え方	乗法九九が用いられている場合について、「1つ分の大きさ」「いくつ分」とらえて全体の個数の求め方について考えることができる。	同じ数を何回も数える活動を通して、より簡便な計算方法を工夫し、一つ分の数がいくつ分で全部の大きさになるという考え方でとらえている。
数量や図形についての表現・処理	乗法が用いられる場合を具体物や式で表わすことができる。 乗法九九(5、2、3、4の段)を構成し、確実に唱えることができる。	乗法九九が用いられる場面を具体物で表わしたり、言葉や式で表わしたりしている。 乗法九九(5、2、3、4の段)を確実に唱えることができ、それを用いている。
数量や図形についての知識・理解	乗法が用いられる場合を理解することができる。 乗法九九(5、2、3、4の段)の構成の仕方を理解することができる。	乗法が用いられる実際の場面を通して、乗法は、一つ分の大きさが決まっているときに、そのいくつ分に当たる大きさを求める場合に用いられることを理解している。 乗数が1増えれば、積は被乗数分だけ増えるという性質を理解している。

### 4 単元の学習の関連と発展



5 単元の指導・評価計画(24時間扱い)

段階	時間	目標	・主な学習活動 学習課題 主な支援の手立て	評価規準 【評価の観点】 (評価方法)	具体的評価規準		劣力を要すると判断された児童への具体的な手立て
					A:十分満足できると判断できる視点	B:おおむね満足できると判断できる視点	
とらえる	1・2	「二つぶん」の大きさ 「いくつぶん」をとらえられるようになる。	<p>かんたんな数え方を考えよう。</p> <p>・校庭で遊んでいる子どもたちのビデオを見てその数を数える方法(同じ数ずつに何列かに並べて全体数を求めればよい)を考えよう。</p> <p>「同じ数ずつ」にして「いくつ分」と数えるとかんたんです。</p>	<p>ものの個数を数えるのに「ある大きさのいくつ分」ととらえ、まとまりをつくりながら数えようとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (発言、行動観察)</p>	<p>ものの個数を数えるのに「ある大きさのいくつ分」ととらえ、まとまりをつくりながら数え、他の並び方もあることに気付いている。</p>	<p>ものの個数を数えるのに「ある大きさのいくつ分」ととらえ、まとまりをつくりながら数えている。</p>	<p>数えやすくなるために、10や100のまとまりを作ればよかったことを想起させながら数をとらえさせる。</p>
			<p>40人をいろいろならびかたで考</p> <p>・おはじきを使って表現し「1つ分」と「いくつ分」で「全体数」を求める。おはじきで並べた後、縦(何人ずつ)横(何列)に注目させ、「1つ分」の大きさ</p> <p>「1つ分」のまとまりが「いくつ分」で「ぜんぶの数」になります。</p>	<p>数量を「単位とする大きさ」の「いくつ分」ととらえている。</p> <p>【数学的な考え方】 (ノート)</p>	<p>同じ数を何回も数えることを、1つ分の大きさがいくつ分まで全部の大きさになるという考え方でとらえ、更に身の回りのものに当てはめて考えている。</p>	<p>同じ数を何回も数えることを、1つ分の大きさがいくつ分まで全部の大きさになるという考え方でとらえている。</p>	<p>おはじきの図に「1つ分」の大きさを一緒に囲みながら、「1つ分」「いくつ分」の見方に導く。</p>
たしかめる	3・4	乗法の意味を理解する。	<p>新しいけいさんをはつめいしよう!</p> <p>・「1つ分」が「いくつ分」で「全部の数」となる計算を「かけ算」という新しい計算として理解する。「ずつ」という言葉に注目させながら、か</p> <p>「1つ分の数」×「いくつ分」=「ぜんぶの数」のようないけいさんをかけざんといひます。</p>	<p>数量関係を「単位とする大きさ」の「いくつ分」ととらえ、それを簡潔に表したものが乗法の式であることを理解している。</p> <p>【知識・理解】 (ワークシート)</p>	<p>かけ算の式を理解し、身の回りからかけ算を用いる場面を見つけて、式に表している。</p>	<p>「1つ分の数」×「いくつ分」=「ぜんぶの数」に表したものが、かけ算の式であることを理解している。</p>	<p>一つ分、いくつ分、全部の大きさの意味をおはじき操作によって確実なものにさせる。</p>
			<p>かけざんのしきにあらわそう!</p> <p>・かけ算になるような絵図を見て「1つ分」と「いくつ分」に注目してかけ算の式に表すことができる。</p> <p>「1つ分の数」×「いくつ分」=「ぜんぶの数」</p>	<p>乗法の場面としてとらえることができる場面を乗法の式に表したり、式を読んだりしている。</p> <p>【表現・処理】 (ワークシート)</p>	<p>適用場面において、教科書3、4ページの図から、正しくかけ算の式で表している。</p>	<p>絵図と「1つ分」「いくつ分」から、かけ算の式を立てている。</p>	<p>絵図から「1つ分」はどれに当たるのか一緒に見つけながら、正しい式に気が</p>
	5	乗法の意味を理解を確実にする。	<p>かけざんのしきをおはじきをつかってあらわそう。</p> <p>・かけ算の文章題を作る。 ・かけ算の式をもとにおはじきを列で並べ、かけ算についての理解を深める。「1つ分」「いくつ分」ということに注目した並べ方をさせるようにするとともに、アレイ図にも表し、視点を変えてみさせること、かけ算九九の構成にも意欲をきた</p>	<p>乗法の場面ととらえられる場面を式に表したり、乗法の式から場面を表現している。</p> <p>【表現・処理】 (観察、発言)</p>	<p>乗法の場面ととらえられる場面を式に表したり、乗法の式から場面をおはじきで表現し、式が違っても同じ答えがあることに気付いている。</p>	<p>乗法の場面ととらえられる場面を式に表したり、乗法の式から場面をおはじきで表現している。</p>	<p>「1つ分」「いくつ分」に当たるのはどこかを印をつけてながら一緒に表すことができるようにさせる。</p>

	<p>6 乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。</p>	<p>かけざんの答えの出しかたを考えよ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ算の問題はたし算に似ていることを、おはじきの操作から考え「1つ分」を「いくつ分」累加していくことによって答えを求める。</li> </ul> <p>かけざんの答えは、「1つ分の数」を「いくつ分」の数だけたすとよい。</p>	<p>乗法の答えを被乗数を乗数の数だけ累加する方法で求めている。</p> <p>【表現・処理】 (ワークシート)</p>	<p>かけ算の式を見て、何のいくつ分かをとらえ、速く正確に答えを求めている。</p>	<p>かけ算の式に表し、たし算で答えを求めている。</p>	<p>おはじきを並べ、式と対応させながら、たし算で答えを求めさせる。</p>
<p>たしかめる</p>	<p>7 乗法の場面としてとらえることができる場面が、身の回りに多くあることを知るとともに乗法の意</p>	<p>学校の中からかけざんを見つげよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・[やってみよう]乗法の場面としてとらえることができる身の回りの場面を探し、乗法の式にあらわす。</li> <li>・1つの事例を挙げ、活動の見通しを持たせるとともに、1つの場面でも、1つ分の見方によって別の式になることをおさえさせる。</li> </ul>	<p>学習内容を適切に活用して活動に取り組みようとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (行動観察)</p>	<p>学習内容を適切に活用した上で、1つの事象について見方を変えながらかけ算の式で表せる場面をさがしている。</p>	<p>学習内容を適切に活用して、かけ算の式で表せる場面をさがしている。</p>	<p>意図的に設置したかけ算の場面を教え、「1つ分」「いくつ分」ととらえさせる。</p>
<p>チャ</p>	<p>8 数の集まりを多様な見方で乗法の式に表わし意味理解を深めるとともに数</p>	<p>の数をかけざんのしきにあらわそう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・格子状になっていない、アレイ図の数</li> </ul> <p>を、いろいろなかけ算の式で表す。</p> <p>の数やあつまりの数がかわっても「ひとつ分」×「いくつ分」</p>	<p>既習の乗法の式をもとに、数の集まりを多様な見方で乗法の式に表している。</p> <p>【数学的な考え方】 (ワークシート・発言)</p>	<p>アレイ図のまとまりの見方を多様に考え、かけ算の式に表わしている。</p>	<p>アレイ図のまとまりの見方を考え、かけ算の式に表わしている。</p>	<p>机間指導と個別指導をとおして、まとまりの視点に気付かせ、立式できるような支援する。</p>
	<p>9 5の段の九九を構成する。</p>	<p>1つ分が「5」のときのかけざんの答えをもとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1台の車に5人ずつ乗っているときの1～9台分の人数を求める。</li> <li>・累加や5とび、アレイ図などを用いて5の</li> </ul> <p>(5の段の表)「5のたん」といいます</p>	<p>5の段の九九の構成の仕方を理解している。</p> <p>【知識・理解】 (ワークシート)</p>	<p>5の段の九九を構成し、そのきまりに、気付いている。</p>	<p>5の段の九九を構成している。(累加)</p>	<p>アレイ図やおはじきの操作をもとに九九の構成を考えさせる。</p>
<p>10・11</p>	<p>5の段の九九のきまりを見つけて記憶し、適用する。</p>	<p>5のだんの九九のひみつを見つけて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5の段を確認する。</li> <li>・5の段の九九のきまりを見つける。</li> <li>・5の段の唱え方を覚える。</li> <li>・5の段カードを作る。</li> <li>・数の並びや変化に目を向けさせ、5の段の</li> </ul>	<p>5の段の九九のきまりを見つけ、唱えている。</p> <p>【表現・処理】 (学習プリント)</p>	<p>答えが5ずつ増えていることに気付く5の段の九九を降順からも唱えている。</p>	<p>答えが5ずつ増えていることに気付く5の段の九九を唱えている。</p>	<p>九九表やアレイ図を見ながら正しく唱えることができるようにする。</p>
<p>12 本時</p>	<p>2の段の九九を構成する。</p>	<p>2のだんの九九をくふうしてつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1台の自転車に2人ずつ乗っているときの1～5台分の人数を求める。</li> <li>・累加や2とび、前の答えに2ずつ足して2</li> </ul> <p>の段の九九の構成をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前の答えに2ずつ足す方法で、6～9台分の人数を求める。</li> </ul>	<p>5の段の九九と同じ考えを用いて、2の段の構成を考えている。</p> <p>【数学的な考え方】 (発言、ワークシート)</p>	<p>累加の考えを活用し、1つ前の答えに2を足せばよいということに気付く、構成を考えている。</p>	<p>乗法について成り立つ性質(累加)を用いて、九九の構成のしかたについて考えている。</p>	<p>アレイ図やおはじきの操作をもとに九九の構成を考えるようにする。</p>

13・14	2の段の九九のきまりを見つけ記憶し、適用する。	<p>2のだんのひみつを見つけておぼえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2の段を確認する。</li> <li>2の段の九九のきまりを見つけ</li> <li>2の段の覚え方を覚える。</li> <li>2の段カードを作る。</li> </ul> <p>数の並びや変化に目を向けさせ、2の段の</p>	5の段の九九のきまりを見つけ、唱えている。 【表現・処理】 (学習プリント)	答えが5ずつ増えていること以外にもいくつかのきまりに気づき5の段の九九を降順からも唱えている。	答えが5ずつ増えていることに気づき、5の段の九九を唱えている。	九九表やアレイ図を見ながら正しく唱えることができるようにする。
15	3の段の九九を構成する。	<p>3のだんの九九をくふうしてつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1そののヨットに3人ずつ乗っている場合で、人の数をかけ算で求め、3の段を構成する。</li> <li>問題の提示の仕方を変える(被乗数を後から示し、乗数の方が問題文中で先に出てくるようにする)ことで、問題場面</li> </ul> <p>3のだんは、1つ前の答えに「3」をたしてつればかんたんです。</p>	乗法について成り立つ性質(累加)を活用して、九九の構成のしかたについて考えている。 【数学的な考え方】 (発言、ワークシート)	累加の考えを活用し、1つ前の答えに3を足せばよいということに気づき、2の段と5の段との共通性を見いだしている。	累加の考えを活用し、1つ前の答えに3を足せばよいということに気づき、構成を考えている。	アレイ図やおはじきの操作をもとに九九の構成を考えるようにする。
たしかめる 16・17	3の段の九九のきまりを見つけ記憶し、適用する。	<p>3のだんのひみつをさぐり、おぼえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習の九九の確認をする。</li> <li>3の段の九九のきまりを見つけ</li> <li>3の段の覚え方を覚える。</li> <li>3の段の九九カードを作る。</li> </ul> <p>2の段、3の段、5の段の式と、答えを並</p>	3の段の九九のきまりを見つけ、唱えている。 【表現・処理】 (学習プリント)	2の段や5の段の共通性や分配法則の考え方に気づき、3の段の九九を降順からも唱えている。	2の段や5の段と共通するきまりを見分け、3の段の九九を唱えている。	九九表やアレイ図を見ながら正しく唱えることができるようにする。
18	4の段の九九を構成する。	<p>4のだんの九九をつくらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動車(1台につきタイヤが4個)の台数からタイヤの総数をかけ算を用いて求め、4の段を構成する。</li> <li>3の段の作り方を想起させる。</li> <li>5×4では意味が違うことについて</li> </ul> <p>4のだんも、3のだんと同じようにつくることができます。かける数が1ふえると、答えは4ずつふえます。</p>	乗法について成り立つ性質を用いて九九の構成のしかたについて考えている。 【数学的な考え方】 (ワークシート・発言)	累加の考えを活用し、一つ前の答えに4を足せばよいということに気づいて構成を考え更に「5×4」との意味の違いについて説明している。	累加の考えを活用し、一つ前の答えに4を足せばよいということに気づき、構成を考えている。	アレイ図やおはじきの操作をもとに九九の構成を考えるようにする。
19・20	4の段の九九のきまりを見つけ記憶し、適用する。	<p>4のだんのひみつを見つけておぼえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一本の木に5個ずつリンゴがなっている木が4本ある場面の問題を用いて、かけ算の式の意味を確認する。</li> <li>それぞれの式をたし算で表し、確認する。</li> <li>4の段の九九カードを作り、覚える。</li> <li>式の意味の違いを確認し、理解させた上で4の段の九九の練習をさせる。</li> </ul>	4の段の九九のきまりを見つけ、唱えている。 【表現・処理】 (学習プリント)	問題文を図と式で表すことができ、類似問題を自力で解いている。 ・4の段のきまりを見分け、唱えている。	問題文を図と式で表すしている。 4の段のきまりを見分け、唱えている。	「ずつ」という言葉に着目させ、それが「1つ分」であることに気付かせる。 九九表やアレイ図を見ながら正しく唱える
21	問題作りによる式の読みや式に表現することを通して、5、2、3、4	<p>かけざんのしきになるもんだいをつくらう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>絵を見て、2×4の式で表すことができる場面を探す。</li> <li>絵を見て、乗法の式に表すことができる場面を探し、式に表す。</li> </ul>	乗法の場面としてとらえることができる場面を見つけ、式に表したり、乗法の式を読みだすことを通して、乗法の式の意味について考えている。 【数学的な考え方】 (ワークシート)	2、5、3、4の段の中から、かけ算の問題を正しく4つ作っている。	2、5、3、4の段の中から、かけ算の問題を正しく1つは作っている。	かけ算になる場面に気付かせる。

まとめる	22	学習内容を確実に身につける。 ・「力をつけよう」に取り組む。 既習事項を学習掲示により思い出させる。	学習内容を正しく用いて問題を解決している。 【表現・処理】 (観察、学習プリント)	学習内容を正しく用いて、問題を解決することができ、教科書以外(ドリル)の活動にも取り組んで	学習内容を正しく用いて、問題を解決している。	既習内容を返らせながら、一緒に問題が解けるようにする。
	23	学習内容の理解を確認する。 ・「たしかめよう」に取り組む。 既習事項を学習掲示により確認する。	既習内容を利用し問題を解いている。 【知識・理解】 (観察、学習プリント)	既習内容を利用し問題を正確に解くことができ教科書以外の活動(ドリル)にも取り組むこ	既習内容を利用し問題を解くことができる。	既習内容を振り返り、問題が解けるようにする。
	24	ゲームに取り組みながら、かけ算を習熟する。 <table border="1" data-bbox="281 473 569 511"> <tr> <td>ビンゴゲームをしよう!</td> </tr> </table> ・ビンゴゲームで、楽しみながら2～5の段のかけ算の習熟を図る。 絶対にできない数字に気付かせ(例えば2の段であれば13や15)な	ビンゴゲームをしよう!	学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。 【表現・処理】 (ビンゴカード)	2～5の段のかけ算九九を確実に唱えることができ、ビンゴのマスの中に入る数字も工夫している。	2～5の段のかけ算九九を確実に唱えている。
ビンゴゲームをしよう!						

チャ...チャレンジ学習

6 本時の指導 ( 8 / 2 4 )【チャレンジ学習】

(1)目 標

数の集まりを多様な見方で乗法の式に表わし、意味理解を深めるとともに数感覚を養う。

(2)基礎・基本とのかかわり

本時で応用させたい基礎・基本は、次の内容である。

【A 数と計算】 A 1 (1) 数の意味と表し方

「エ 一つの数をほかの数の積としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。」

具体的には、「一つ分の数」×「いくつ分」＝「全部の数」という式に表われる乗法の意味理解とそれを身につけることが単元を貫く基礎・基本であると考え。本時に至るまでのモデル学習では、その意味理解を大切に扱い、具体物を用いた算数的活動を繰り返してきている。本時は、その意味理解を深めるために位置付けたチャレンジ学習である。また、次時からの乗法九九において、児童自らきまりを発見しながら主体的に学習を進めていく意欲付けも視野に入れている。

(3)本時の指導にあたって

本時は、数の集まりをいくつかずつまとめて数える活動を通して、一つの数をほかの数の積とみて、いろいろな考えを的確に式に表わすことをねらいとしている。

活動にあたっては、次の2点に留意して指導する。

ア 問題提示の工夫

(ア) 多様な考えを引き出すためのアレイ図を提示し、「まとまり」を意識して、かけ算の式に表わすようにすること。




(イ) 同じ規則性で の数が増えたアレイ図を提示し、思考を繰り返しながら、 の数が増えても同じように解決していけるようにすること。

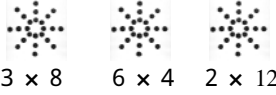

イ 評価の工夫

(ア) 乗法九九の学習において、意欲的・探求的な算数的活動につながるよう、個々の考えのよさや努力の様子を認めること。

(イ) 目的をもってとも学びに入るために、ひとり学びのあとに振り返りを位置づける。

(4)展 開


段階	学習活動・学習内容	支援の手立てと評価の観点	準備・資料
(15)	1 前時の確認をする。 ・身の回りからかけ算になる場面を探しての立式 「ひとつ分の数」×「いくつ分」	・格子状のひとつの事例を挙げ、同じ場面でも、ひとつ分の見方によって別の式になったことを押さえる。	学習掲示
	2 問題を把握する。 ・問題のアレイ図を見て、前時までの違いをとらえ、かけ算の式に表せそうか考える。 (1)  (2) 	・問題(1)だけ提示する。 ・格子状になっていないことをとらえ、かけ算の式に表せるかどうかを問い、解決の意欲をもたせ、学習課題につなげる。	拡大図
	3 課題を把握する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> の数をかけざんのしきにしよう。</span>		
	4 見通しをもつ。 ・問題(1)を解くことで、問題(2)の自力解決への見通しをもつ。 $2 \times 8$ 、 $4 \times 4$ 、 $8 \times 2$	・練習問題的に扱い、一斉に考える。 ・ひとつ分の見方を考えさせながら、3通りの式に表わし、まとまりの作り方をとらえさせる。 ・問題(2)を提示し、何通り立式できるかという意欲をもたせ、自力解決につなげる。	ワークシート 拡大図
ふ か め と も	5 自力解決に取り組む。 ・まとまりを考えながら、かけ算の式に表わす。	・まとまりを  で囲ませる。 ・まとめ方を根拠にして、かけ算の式を考えさせる。 ・ひとつの方法が終わったら、他の式を考えさせ、式に表わす力をつける。	
	6 集団解決をする。 (1) ペア学習をする。 「なるほど、これもいいな」 「間違えた、やり直しをしよう」 「ぼくと似てるな」...	・よさや間違いに気付かせ、修正も含めて考えを確かなものにさせていく。 ・自分の方法と同じか、似ているか、違うかという視点で発表を聞かせ、式から多様なひとつ分の見方を引き出す。	


学 び  (12)	(2) 全体で話し合う。 (例)  $3 \times 8$ $6 \times 4$ $2 \times 12$	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとつ分の見方を整理分類し、適用につなげる。</li> </ul>															
ひ ろ げ る  (8)	7 適用問題を解く。  チャレンジ 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とも学びで得た方法をもとに、立式するよう助言する。</li> <li>・間違いがあったら、「同じ数ずつ」を再確認させる。また、その囲みと式を取り上げて、みんなで考える。</li> <li>・主な式を取り上げて、かけ算の意味を確かめるとともに、多様な考えをほめることで、まとめとする。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="730 654 1292 1086"> <tr> <th colspan="3">【評価規準】数学的な考え方</th> </tr> <tr> <td colspan="3">既習の乗法の式をもとに、数の集まりを多様な見方で見て、乗法の式に表している。(ワークシート)</td> </tr> <tr> <th colspan="2">具体の評価規準</th> <th rowspan="2">努力を要すると判断された児童への具体的な手立て</th> </tr> <tr> <th>A 十分満足できると判断する視点</th> <th>B 概ね満足できると判断する視点</th> </tr> <tr> <td>「ひとつ分の数」×「いくつ分」の見方を多様に考え、かけ算の式に表わしている。</td> <td>「ひとつ分の数」×「いくつ分」の見方を考え、かけ算の式に表わしている。</td> <td>机間指導と個別指導を通して、まとまりの視点に気づかせ、立式できるよう支援する。</td> </tr> </table>	【評価規準】数学的な考え方			既習の乗法の式をもとに、数の集まりを多様な見方で見て、乗法の式に表している。(ワークシート)			具体の評価規準		努力を要すると判断された児童への具体的な手立て	A 十分満足できると判断する視点	B 概ね満足できると判断する視点	「ひとつ分の数」×「いくつ分」の見方を多様に考え、かけ算の式に表わしている。	「ひとつ分の数」×「いくつ分」の見方を考え、かけ算の式に表わしている。	机間指導と個別指導を通して、まとまりの視点に気づかせ、立式できるよう支援する。	拡大図
【評価規準】数学的な考え方																	
既習の乗法の式をもとに、数の集まりを多様な見方で見て、乗法の式に表している。(ワークシート)																	
具体の評価規準		努力を要すると判断された児童への具体的な手立て															
A 十分満足できると判断する視点	B 概ね満足できると判断する視点																
「ひとつ分の数」×「いくつ分」の見方を多様に考え、かけ算の式に表わしている。	「ひとつ分の数」×「いくつ分」の見方を考え、かけ算の式に表わしている。	机間指導と個別指導を通して、まとまりの視点に気づかせ、立式できるよう支援する。															
(5)	8 学習を振り返る。 ・本時の自己評価と感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決(考え方・意欲)に対する観点で自己評価させ、その感想をまとめるようにする。</li> <li>・次時は、かけ算九九に入ることを告げ、学習の意欲付けとする。</li> </ul>	評価表														


(5)板書計画

かだい  
の数をかけ算のしきに表わそう

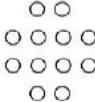
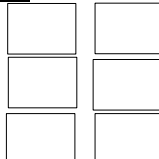
もんだい(1) 「ひとつ分の数」×「いくつ分」

 ⇒  $2 \times 8$

 ⇒  $4 \times 4$


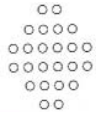
 ⇒  $8 \times 2$

もんだい(2) 「ひとつ分の数」×「いくつ分」

 {  $2 \times 6$   
 $3 \times 4$   
 $6 \times 2$  }  ...

(多様なまとめ方)

チャレンジ!

  $3 \times 8$      $6 \times 4$

$6 \times 4$     $2 \times 12$

...